



交通ルールを守って安全運転を

答

あおり運転にあたる妨害運転について、自動車のおおりの運転が原因の事件・事故が増加したことから、妨害運転に対する厳罰化を盛り込んだ改正道路交通法が施行され、また、自転車についても悪質な運転が大きな問題となっているため、自転車でのあおり運転行為が同法に新しく危険行為として規定された。現在、県警察ホームページであり運転に関する法改正の周知を行っており、本市ホームページでも、自転車の妨害運転が危険行為に追加されたことや、違反した場合の罰則について掲載し、周知を図っている。今後も、警察、交通安全協会と連携し、各学

校での交通安全教室、街頭啓発やチラシの配布など、交通安全啓発活動を通じた自転車の安全運転とマナーの向上を図りたい。

また、損害保険などの加入は、これまで努力義務であったものが、本年4月1日から義務化された。本市においては、公益財団法人日本交通管理技術協会が実施する赤色T Sマーク付帯保険や一般財団法人全日本交通安全協会が実施するサイクル安心保険への加入促進をホームページやフェイスブックで呼びかけるほか、自転車損害保険の相談に訪れた来庁者にも加入を勧めており、引き続き制度の周知を行っていききたい。

西条市民

クラブ

武田 功 議員



(一般質問)

1 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う令和2年度の市政運営及び財政運営について

ふるさと納税寄附受入

現状と今後の見通しは？

問 本年度当初予算において、ふるさと納税寄附金として7億円が歳入に計上されていたが、現状と今後の見通しはどうなっているのか。

答 本年8月末時点での寄附金額は、約2億3千万円であるが、例年9月以降に寄附金額が増加する傾向があり、本年度も同様に、今後



ふるさと納税返礼品の一例

寄附金額が増える見込みであることから、当初予算額の7億円を確保することは可能であると考えている。

財政調整基金

今後の在り方は？

問 市長は、財政調整基金の目標とする積立額を50億円程度としている。本年度、新型コロナウイルス感染症対策のため、財政調整基金から約20億円を取り崩したが、本年度末の残高をどのように見込んでいるのか。

また、財政運営は今後厳しい状況になると推測されるが、財政調整基金の在り方をどのように考えているのか。

答

財政調整基金は、年度間の財源調整に加え、今回のような急激な歳入の減少や、突発的な歳出の増加に備え、一定額を必ず確保しておく必要があるものである。

その残高は現時点で約27億5千万円となっており、今後の一般財源などの動向次第ではあるが、本年度末には約40億円となる見込みであり、50億円を割り込むことが確実な状況である。

令和3年度には、新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度以上に法人市民税・個人市民税が減収となる見通しであり、現状の景気動向による歳入の減少に加え、将来的に扶助費などの増加が見込まれる状況下において、積立額を目標額の50億円とすることは、非常に困難であると想定している。

しかしながら、今後は今まで以上に行政改革を推進し、公共施設の見直しやスクラップ・アンド・ビルドの徹底など、歳入水準に見合った歳出構造への転換を早急に図り、残高を目標額に近づけるべく、財源の確保に努めたい。